

友の会だより 12号

都歴研友の会事務局 〒191-0033 東京都日野市百草971-158 増田方
 電話・FAX 042-591-1853 ホームページ <http://sky.geocities.jp/torekikentomonokai>

「友の会」秋季史跡見学会／初めてマイクロバスで



報告 村木 逸子

2017 年度の史跡見学会をどうするか、場所・交通手段など考えると自前で企画するのは難しかったのですが、2015 年度に「都歴研」が実施した北埼玉の史跡見学（「友の会だより第 8 号」にその時の報告を掲載）を参考にコースを組み立て、「バス旅」に中型バスを予約して実施しました。

- 1 日時 11 月 19 日（日）8 時 30 分 新宿西口中央通り集合 解散は 6 時半ごろ
- 2 参加者 26 名 声かけを多くした結果 26 名も参加して、バスの座席はギリギリでした。
- 3 見学場所
 - ① さきたま史跡の博物館 埼玉古墳群
 - ② 行田市郷土博物館 忍城跡
 - ③ 日本煉瓦製造株式会社「旧煉瓦製造施設

ーホフマン窯」見学

④ 渋沢栄一記念館 渋沢栄一生涯

＊ ＊

埼玉県は東京に近いがゆえに訪れることのない地域です。バスの運転手さんが費用節約に努めてくれて高速道路を早めに降りて田ん

主な内容

「友の会」秋季史跡見学会	村木逸子	1
近世文書講読会を開催（感想）	鯨澤瑛子	7
ミニ歴史散策「王子駅周辺」	多田統一	8
友の会から歴史教育研究助成金を贈呈		10
全歴史史跡見学「東京グローバル散歩」	村木逸子	15
都歴研秋季講演会 高橋典幸氏「日本中世史」		15
都歴研秋季講演会 吉澤誠一郎氏「中国近現代史」		16
東京産業考古学会文献調査メモ	多田統一	18
会員著書紹介『国分寺跡を巡る』増田克彦著		18
滝山城址探訪	小澤拓美	19
辺野古・高江のたたかい	松家直子	22
『なにわ日記』奈良と京の旅	重政文三郎	24
友の会総会報告／今年度の企画ご案内		28

ぼの中の道を走ってくれたおかげでゆっくりと「富士山」を眺め、関東平野の広さ、平らさを知ることができました。信州に育った参加者のOさんは「こんなに広い平野をみて感激しました」と言ってくれて、到着時間を気にしてイライラしていた私を慰めてくれました。

さきたま史跡博物館と古墳群

①さきたま史跡の博物館は大変立派な公園に整備されています。

ここには前方後円墳8基と円墳1基の大型古墳が残っています。周囲にあった小型古墳は昭和初期に沼地の干拓などにより壊されました。

1966年にこの辺りを「風土記の丘」として整備する計画が進められ、1968年に稲荷山古墳の墳丘部から粘土槨と礫槨が見つかり多くの副葬品が発見されました。

1987年、副葬品の一つである鉄剣に文字が書かれていることがわかり、たちまち有名な古墳となりました。「金錯銘鉄剣」(国宝)

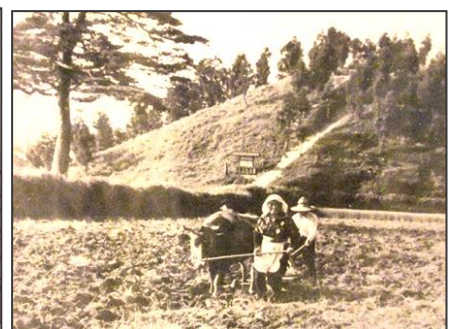
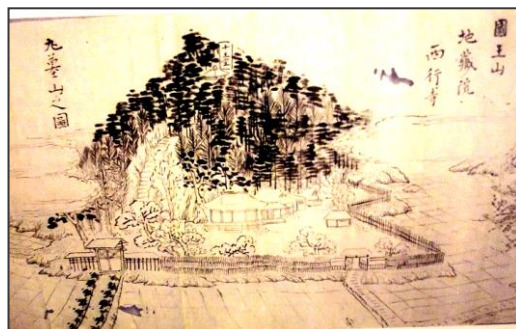
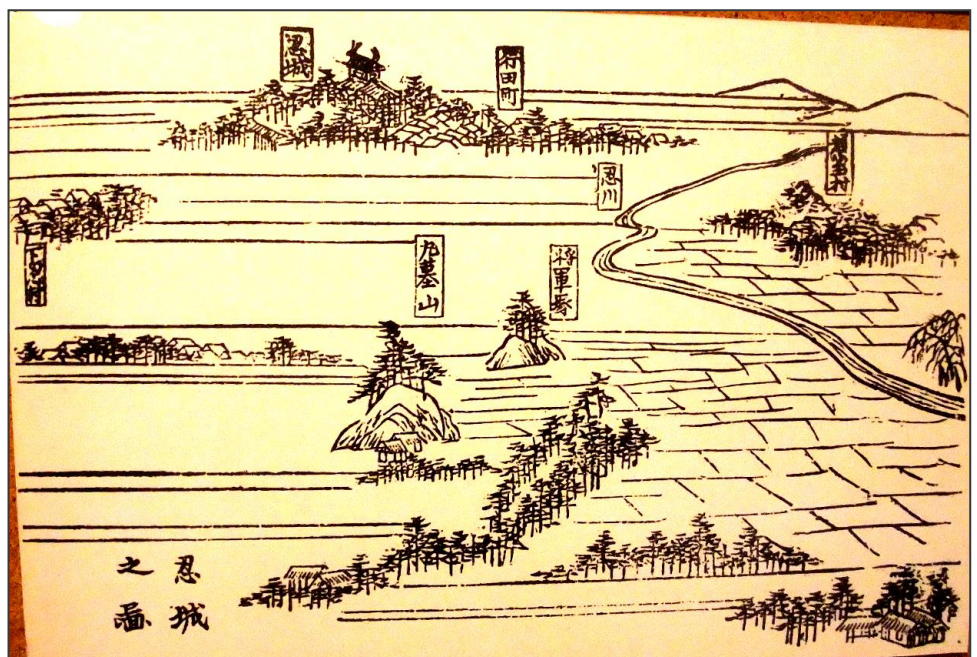
ボランティアガイドさんの説明が長く、肝心の展示品や古墳をゆっくり見る時間がありませんでした。

展示品のコーナーにあった絵を写してきました。前方に忍城と



行田の町が見え、手前に丸墓山や將軍塚が描かれています。稲荷山古墳や二子山古墳は描かれていません。丸墓山古墳は円墳としては全国1位といえますから中心を成し、他の古墳は松の木の陰に隠れていたのでしょうか。

丸墓山古墳には地蔵院などがあったようです。古墳というより裏山のある寺院として親し



まれていたの
でしょう。

見学当日、丸
墓山古墳に走
って上った健
脚の参加者も
いました。

今は有名に
なった稲荷山
古墳も昭和の
初期には無名、
そのすぐ近く
は田んぼでし
た。

立派な古墳
公園のかつて
の姿は貴重な
史料です。



忍城と郷土博物館

②次の見学場所は「行田市郷土博物館 忍城跡」でした。

忍藩はあまり有名な藩ではありませんでしたが、歴史小説「のぼうの城」（著者 和田竜）をもとにコミックスを花咲アキラが描き、映画「のぼうの城」が2012年に公開され、一躍有名な城になりました。現在は鉄筋コンクリート造りの城ですが、石田三成軍の水攻めに抗した当時の状況は映画で見ると面白いです。

郷土資料館では「阿部正武と徳川綱吉」という企画展が開催されていました。阿部正武は1677年に藩主となり、その後1681年から24年間老中として五代将軍綱吉を支え、また忍藩の統治にも力を発揮した人物だったということです。各地から集められた歴史史料をゆっくり見る時間が欲しかったのですが出来ませんでした。

ただ一つ、私の疑問が解けました。私の両親は埼玉県秩父の生まれです、小さい時に祖母に「秩父は昔はどこの藩だったのか」を訊ねた時

に「忍藩」といわれました。そんな藩があったとは知らず、その後忍藩は行田にあったと知り、祖母はいい加減なことを言っていたと思いこんでいました。しかし、今回秩父が飛び地として忍藩の知行地になっていた資料を見ました。これは私にとって大収穫でした。

行田は「足袋の町」として有名です。しかし、生活のスタイルが変わり足袋の需要は激減しました。

わずかに伝統を守ろうとした製造業者が「スポーツシューズ」に転換するという小説が「陸王」として出版され、この時期ドラマ化され放映中で町は有名になりました。

当日「コスプレ姿」の若者をあちこちに見ました。お城があり、古い町並みが残るところとして市も積極的に町を開放しているとのことでした。

お城の近くでそんな若者に声をかけた参加者の一人、「彼女らは自分を表現するために衣装の歴史的背景や小物の意味など調べ真剣に自己表現している」ことを知ったと私に教えてくれました。

昼食 「道の駅 岡部」 道の駅ではイベントがあり賑やかでした。

「旧煉瓦製造施設」ホフマン窯

③三番目の見学地は日本煉瓦製造株式会社「旧煉瓦製造施設」ホフマン窯です。明治時代の近代建築には「煉瓦」が多用されました。元々は煉瓦造りの伝統のない我が国がいつ頃どこでレンガを作り始めたか興味のあるところでした。第1号が大阪府堺市で第2号が神奈川県横須賀で1870年頃生産されたそうです。東京の銀座煉瓦街をつくるために東京の小菅に煉瓦工場がつくられたのが1872年のことです。それから15年後の1887年に深谷の地にこの煉瓦工場が設立されました。

民間会社として設立され
2006 年まで
120 年間営業
した会社です。

私たちが見
学した 2017 年
は、会社創立
130 周年にあ
たり、会社が所
有していた資
料が多く展示
されていまし
た。



日本煉瓦製造会社 旧事務所前にて

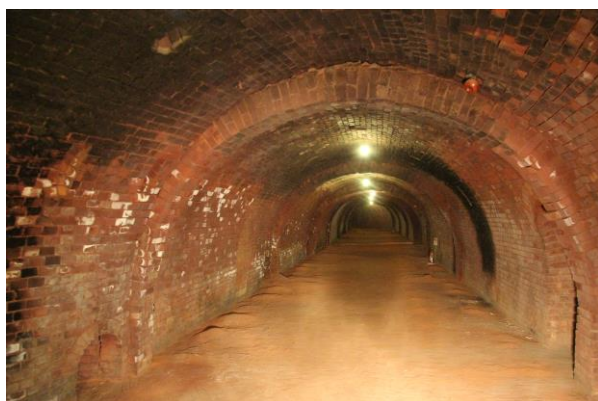
日本煉瓦製造会社設立願 明治 20 年 10 月 25 日付

会社の本社は日本橋にあり、以下の 5 名の連名で東京府知事宛てに出されていました。

渋沢栄一、池田栄亮、木村正幹、益田孝、隅山尚徳の 5 名が出資者でした。

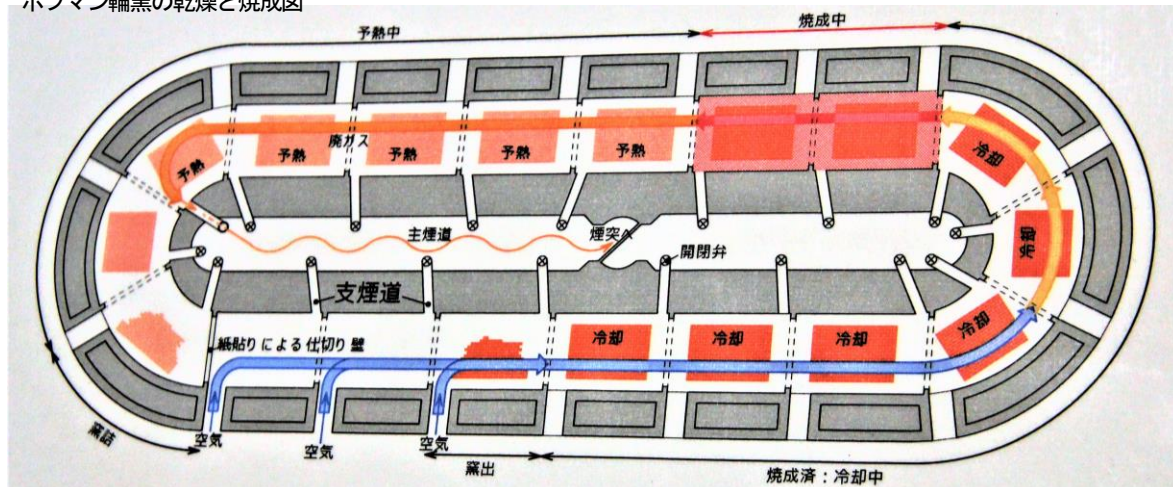
認可は 29 日と、手早い対応がされています。組織が整わない時代は事がスムーズに進みます。

明治 21 年 1 月 31 日「ホフマン式輪窯 1 ～3 号と乾燥室の建設工事請負に関する契約書」が「清水組み」（現清水建設）との間に交わされました。その文書には、建築士として辰野金吾の名があります。



現在史料館となっている建物は、煉瓦工場の建設および煉瓦の製造指導にあたったドイツ人技師チーゼの居宅兼事務所として明治 21 年に建てられたものだそうです。ここも「重要文化財」です。深谷に煉瓦工場ができた理由とし

ホフマン輪窯の乾燥と焼成図



ては、もともと深谷市周辺は、利根川と小山川の氾濫土が堆積していて、その土をつかった瓦製造がさかんであったこと、それにやはり出資者である渋沢栄一の故郷であり彼の発案もあったでしょう。深谷は水田より畑の多い土地だったのでその畑から煉瓦用の原土を採掘する。会社は、農家には見返りにその後は水田にするような契約をし、灌漑排水事業まで整備したということです。現在周辺は水田地帯となっていますが有名な深谷ネギの畑を見ると道より低くなっているそうです。

ホフマン窯とは考案者のドイツ人技師フリードリッヒ・ホフマンの名がつけられた円形の窯です。

深谷のホフマン窯に火が入れられたのは、明治21年年9月、本格操業は翌年5月。

現在残っているホフマン窯は1周120m長さ56.6m、幅20m、高さ3.3m、18の焼成室のもの。

煉瓦の焼成

煉瓦の作り方は大変
能率よく効率も良い方

ホフマン輪窯の操業



窯詰め

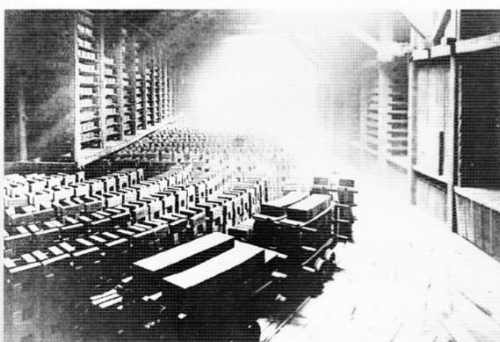
窯の内部を18部屋に分け、1部屋に約18,000個の煉瓦を詰めました。

すべてが上手に焼き上がるよう、隙間を空けながら積み上げます。



投炭

窯の上屋である2階では、燃料である粉炭を窯内部に向けて投入します。一度点火すると火を絶やすことなく3交代制で煉瓦を焼き続けました。



コール式乾燥室

上屋の3階では、窯の余熱を利用して煉瓦素地を乾燥させました。レールが敷かれ、煉瓦を運ぶためのトロツコが走っていました。

天候に左右されないため、大量生産の一翼を担いました。



専用鉄道

明治28年、深谷駅から工場まで、日本初の専用線が開通しました。当初は蒸気機関車でしたが、途中からディーゼルに替わります。

昭和50年の廃止後は、遊歩道として市民に開放されています。

法です。

1 部屋に煉瓦 18000 個を詰める。最盛期には年間 3500 万個生産。

①窯詰め（搬入）

煉瓦を積み込んだら窯出入り口は泥と煉瓦を積み上げ密閉する。

②空気の流れを仕切るため、新聞紙を張り合わせた大きな紙を窯と窯の間に置く。

③燃料の粉石炭は、上部の孔からいれる。焼成温度は 1000 度。

輪の中央部に向かって煙が行く道があり、中央の煙突から排煙。

④焼成された煉瓦はその部屋で冷却される

⑤焼成行程が一回りする間に冷却された煉瓦は積み出され、そこに新たな煉瓦が積み込まれ焼成される。

つまり、一度火入れをすると、1 か月近くで一回りする。

煉瓦の輸送

当初は、小山川・利根川を使い関宿で江戸川に、深川を経て東京に。しかし、浅瀬が多く、外輪の川蒸気船には不適だったため、明治 28 年、渋沢栄一の発案で工場から深谷駅まで「上敷免鉄道」を建設。＊現在遊歩道

ここから運ばれた煉瓦で東京駅・日本銀行旧



渋沢栄一生涯・中の家

館・旧三菱 1 号館・横浜開港記念館・赤坂離宮・法務省旧本館・・・が造られました。

渋沢栄一記念館と生家・中の家

④番目の見学地は渋沢栄一記念館と渋沢栄一生涯（中の家）です。

渋沢栄一は 1840 年（天保 11 年）は深谷でうまれました。1931 年没 91 歳。

榛沢郡血洗島の農家の子で幼少時から藍玉、養蚕の商売に携わり視野を広めます

青年期には勤皇志士らと交友を深める。江戸遊学、京都での志士活動、一橋慶喜につかえ、慶喜の弟慶武の欧州訪問に同行し、フランス他のヨーロッパ世界を知る。

明治 2 年、大蔵省に入省するが、6 年に退官し民間の実業家として大活躍します。第一国立銀行、東京瓦斯、東京海上火災保険、王子製紙、秩父セメント、帝国ホテル、東京証券取引所など多種多様な会社の設立・育成に携わる。その数 500。

医療、教育、国際交流など多くの社会事業にも尽力しました。中の家の庭に立ち、ここ深谷の地から近代日本草創期の偉人、渋沢栄一が生まれたのだという感慨に浸りながら、急いでバスへと追い立てる自分の役目を嘆いていました。

もう一つのホフマン輪窯の紹介

最盛時には全国で 50 か所あったというホフマン窯は現在は 4 か所残るのみとなりました。

京都府舞鶴市、滋賀県近江八幡市、栃木県野木町、そして埼玉県深谷市です。

野木町のホフマン窯は「下野煉化製造会社」のもので、形もユニークで体験もできるなっています。焼成室は 16 で洒落た形です。

hofumankan@town.nogi.lg.jp

[0280-33-6667](tel:0280-33-6667)

近世文書講読会を開催 幕末の「大山参り旅日記」を読む

友の会独自企画として、会員による「お話し会」を実施した。9月19日の第1回は、喫茶店ルノアール（飯田橋西口）を会場に、重政文三郎氏が「幕末の『大山参り旅日記』を読む」として、甲州道中・駒木野関所の関所番の子・佐藤正雄（19才）の文久3年（1863）の日記から、相州大山へ参詣した旅日記を解説しながら、お話をした。佐藤少年は、大山詣のあと、江の島・鎌倉・金沢・横浜を観光して回っている。とくに鎌倉と横浜の今昔に注目しながら読んでいった。鎌倉の史跡巡りでは江戸時代の鎌倉の観光ポイントを、現在と比較しながら解説した。開港したばかりの横浜では、厳しい検問を経験し、幕末の横浜の臨場感ある日記文を読むこととなった。この解説文は、「友の会だより」11号に掲載している。当日の感想文を、鮎澤瑛子さんから寄せられたので掲載する。

講読会の感想

十九才は大人だった

鮎 澤 瑛 子

文久3年（1863）といえば幕末の混乱の最中のはずだが、地方ではまだ切迫感もなく、佐藤正雄らがのびのびと大山・江の島・鎌倉と旅する姿は読み手をもくつろがせる。

関所番の跡取り息子として、裕福な中、大事に育てられたであろう正雄が、気心の知れた同年代の友人二人と連れ立ち、三人のお供を同行させ、しかも出費を一切気にせず（そうとしか思えない）する旅のゆとりの気分が、日記の文面から見え隠れする。

十九歳の正雄は、今風に「正雄クン」と呼びたいくらいの若者のようであって、実はとても大人だ。「昔の二十（はたち）は今の三十代」だそうだが、それ以上かもしれない。

先ず、関所番という職業柄もあるうが手慣れたくせのない文字を書く。日々の記録といえども筆の運びは崩れず、とても読みやすい。（ちなみに、幕末に京都で画の修業をしていた我家の祖先鮎澤耕山の手紙は、自己流の崩し字で判読できない部分がいくつもある）

要所所で詠む和歌も、型を外さないそつのないものである。ありきたりといってしまう

それまでだが、和歌特有のことばを即席に使いこなせるなど、なかなかのものである。往路相模川の船下りでの、「たぎち行く水」「さかまく水」と大雨の後の激しい水流を表した後で、「うさをわするゝ秋のはつ風」とまとめるなど手慣れている。平凡でも余裕がうかがわれる。

江の島の宿で、女中のおまつと竹の名を詠み入れた歌を難なく作るなどユーモアセンスもある。更に宿ごとに「酒肴」でくつろぎ、時に女郎衆（それも六人も）を上げて三味線を弾かせて大騒ぎ、これが大人でなくてなんだ。

旅に土産は必須である。この旅最大の目的大山阿夫利神社では、さぞ大量のお札を買い込み、帰宅後近隣に配ったことであろう。大山詣の翌日には「みやげ物いろいろ」を持たせてお供の二人を先に帰しているが、その「いろいろ」は何であったのか。大人の撰択が知りたいところである。

鎌倉では案内人をつけて名所をくまなく回り、一つ一つ丁寧に書き留めている。この几帳面さと興味の持ち方も大人である。

横浜での検問事件については、そのいきさつが順序立てて詳しく記されていることによって、当時の横浜の厳しい現実とともに、それを目の当たりにした正雄の心情を察することができる。大人の記録になっている。

要するに、正雄は相当な教養人であると言える。一人前の大人だったのである。

ミニ歴史散策報告 王子駅周辺

多田 統一

7月17日（月、祝日、海の日）、都歴研友の会によるミニ研修旅行を実施した。案内は多田統一。参加者は7名。午後2時にJR「王子」駅改札口前に集合、

洋紙発祥の碑—お札と切手の博物館—王子神社—旧醸造試験所第一工場跡—王子稲荷神社—名主の滝公園

のコースを巡り、午後4時にJR「王子」駅前で解散した。猛暑の中、木陰で休息を取りながら、特に産業に視点を置いた散策を行なった。見学のポイントと概要は、次の通りである。

・洋紙発祥の碑

1873年、渋沢栄一がヨーロッパ視察から帰国し、王子に抄紙会社を設立、この王子の地に製糸工場を造った。1945年戦災でその歴史を閉じたが、工場設立80周年を記念して1953年にその跡地に碑が立てられた。

・お札と切手の博物館

国立印刷局王子工場正門に、お札と切手の博物館がある。1階の展示室では国立印刷局の仕事、お札や切手の製造技術の紹介が行なわれ、2階の特別展「切手の国の探検隊〜めずらしい切手を求めて〜」では金箔や皮など紙以外でできた切手も展示され、見学者の目を楽しませてくれた。子連れのグループに人気で、入館料無料はありがたい。

・王子神社

中世の熊野信仰の拠点となった神社である。

祭神は、熊野権現若一王子。境内には、美容・理容関係者の信仰を集める関神社と毛塚がある。

・旧醸造試験所第一工場

1903年、明治政府が醸造技術の向上を図るために設立した研究施設である。2014年に、国の重要文化財に指定された。

・王子稲荷神社

約1000年の歴史を持つ。社殿の天井には、江戸中期の画家谷文晁の竜の絵がある。また、境内にある「狐の穴跡」は、落語「王子の狐」の舞台にもなった。



・名主の滝公園

安政年間に、王子村の名主畑野孫八が屋敷内に滝を開き、一般客に開放した。安藤広重の「絵本江戸土産」には、十條の里の女滝・男滝として紹介されている。

崖線の存在、水と生活・信仰、暖地性植物と気候変動、交通結節点としての王子の街の特色、近世の行楽地としての飛鳥山、防災拠点としての都市公園、商店街の活性化など、見るべき視点はたくさんあるが、時間的な制限もあり製糸・建築・農業技術などの近代化遺産を中心に巡り、産業遺産の保存の大切さについて考えることができた。

友の会から歴史教育研究助成金を贈呈

全歴研東京大会の分科会発表者10名に

7月31日(月)、全歴研第58回大会(東京大会)の分科会発表者10名に対し、本会から**歴史教育研究助成金**(額面5,000円の図書カード)を贈呈しました。

これは、本会が東京都歴史教育研究会の歴史教育研究の推進を支援するための事業として、全国大会で研究発表する教員を対象に助成金を贈る事業で、毎年行っています。

18年度の歴史教育研究助成金贈呈対象者は以下の通りでした。

第2分科会(日本史)

- ・都立三鷹中等教育学校 **丸山 優介** 先生
「ICTタブレットを活用した
教育旅行事後学習実践について」
- ・都立八王子東高校 **島津 聡** 先生
「プレゼンテーションと相互評価による
歴史学習 ―地域史の探究活動との
関連づけを通して―」

- ・都立小金井工業高校 **佐藤 慎也** 先生
「日常的なAL型授業実践の成果と課題
―井伊直弼の人物評価・満州事変等―」

第3分科会(日本史)

- ・都立田園調布高校 **豊田 基裕** 先生
「地域教材(東京都大田区)を生かす実践
―新田開発と六郷用水―」
- ・都立石神井高校 **中村 修** 先生
「浮世絵から多角的に考える江戸時代の
文化と都市としての江戸の特異性」

第4分科会(世界史)

- ・都立工芸高校 **鈴木 智** 先生
「鉄砲伝来のルーツから考える

世界の一体化と日本」

- ・都立立川高校 **八木橋 朋弥** 先生
「アフリカ大陸の歴史から
先入観や偏見について考察する」

第5分科会(世界史)

- ・都立科学技術高校 **大木 健** 先生
「両大戦間期のドイツ」
- ・都立新宿高校 **横田 成洋** 先生
「アメリカ独立戦争とその後の課題
―現代との関連から―」
- ・都立五日市高校 **吉弘 雄飛** 先生
「定時制高校におけるAL型授業の実践
―産業革命後の労働運動―」

友の会主催

ミニ歴史散策のお知らせ

日時: 2018年9月5日(水) 14:00~15:30

場所: たばこと塩の博物館

集合: 博物館玄関 14:00

墨田区横川 1-16-3

「東京スカイツリー」駅、「本所吾妻橋」

駅より徒歩7分、「押上」駅より徒歩10分

テーマ: 「たばこと塩の歴史」

観覧料: 1人100円

世話人: 多田統一

板橋区蓮根 2-29-10-105

TEL・FAX 03-6310-5503

携帯 080-6801-4187

メール sp399qn9@cap.ocn.ne.jp

東京グローバル散歩「聖地巡礼」

～キリスト教の足あと～

報告 村 木 逸 子

7月28日（金）

参加者 30 名。

JR 品川駅港南口集合、
8 時 30 分。

ウィークデイの朝の品川駅の膨大な数の人の群れの中を右往左往しながら何とか集合地点に到着しました。今回の史跡見学はキリスト教関係の建造物や史跡見学と資料館訪問でしたが、最後の最後にイスラム教に関する場所の見学もセットされていました。



上「江戸大殉教図」
（江副隆愛氏作）
右は原主水



① カトリック高輪教会

→カトリック（江戸におけるキリシタン大殉教）

最初に訪ねたのはカトリック高輪教会でした。入り口近くに「江戸の大殉教顕彰碑」がありました。これは 1623（元和 9）年に、徳川家光の命で江戸のキリシタンが処刑されたことを悼む碑です。江戸の殉教は前年に長崎で宣教師ら 55 人が処刑された元和の大殉教に続きました。禁教令が出された後も江戸にはかなりの信者がいて、宣教師たちも密かに活動し

ていました。イエズス会士ジェロニモ・デ・アンジェリス神父、フランシスコ会のフランシスコ・ガルベル神父、

そして日本人の信者シモン・遠甫、ヨハネ原主水をはじめ囚われていた信徒 50 名は江戸の繁華街を引き回され、三田の小高い丘、札ノ辻で火刑に処されました。20 日後に女子・子供 37 名も処刑されました

この事実はイエズス会士からローマへ報告され記録として残されましたが日本には記

録がないということです。カトリック高輪教会の地下に資料館がありました。

2008 年、ベネディクト 16 世により「副者」(聖人の次)に列せられました

毎年 11 月に「江戸の殉教者記念祭」があるということです。

高輪教会では「殉教を学ぶ会」も活動しているそうです。

② 明治学院大学歴史資料館

→プロテスタント(改革派 長老派教会)

明治学院の起源は 1863 年に J・C・ヘボンが横浜に開いた「ヘボン塾」にあります。その男子部が明治学院、女子部がフェリス女学院となりました。ヘボンはアメリカ長老教会から派遣された宣教師です。一方 1877 年にアメリカ長老教会、オランダ・アメリカ改革派教会、スコットランド一致長老教会の 3 会派が合併して「東京一致神学校」を設立します。

1880 年に築地居留地に移転したヘボン塾がこれらの長老教会系の学校を合併してできたのが「明治学院」です。

1887(明治 20)年に設置認可され、現在大学のある芝白金に 1 万坪のキャンパスが設けられました。高台の校地には次々と西洋建築が建てられ、現在も多くが残されています。

礼拝堂、パイプオルガン、明治学院記念館、インブリー館(宣教師館)、島崎藤村校歌碑、ヘボン博士胸像などを見学し、「歴史資料館」



に入りました。

歴史資料館は 1998(平成 10)年に開館し、学院関係歴史資料の蒐集・保存・展示会・講演会開催、レファレンスサービス、資料集の発行、ニュースレター刊行など幅広い活動をしています。1 階の展示室にも史料が多くありました。

ヘボン、賀川豊彦、嶋崎藤村などのコーナーがあります。一般公開されています。

入館料は無料、月～金 03-5421-5170

③ 元和キリシタン遺跡(車窓見学)

処刑された場所札ノ辻に殉教碑がありました。

④ 聖路加国際大学 聖ルカ礼拝堂

→プロテスタント(聖公会)

聖路加国際病院の創設者ルドルフ・ボリング・トイスラーはアメリカ聖公会の宣教師として 1900 年に来日、1901 年に病院を



創設し、翌年「聖路加病院」と名付けました。新約聖書の福音書「ルカ伝」の作者聖ルカは、聖パウロの布教に同行したギリシャの医者で、医療をもって人々を救う守護聖人として病院の名称につけられることが多いそうです。貧しい施療患者を診察するため、皇室や大熊重信の後援や三井・三菱の献金で運営されたといえます。

関東大震災で壊滅、1933 年復興された建物やチャペルは「ネオ・ゴシック様式」です。トイスラーは医学を支える人材の育成にも熱心で 1920 年に、聖路加高等看護学校を創設しました。その伝統は現在も聖路加国際大学として、看護学の博士も養成している日本のトップの大学となっています。

翌日に「故日野原重明」医師のお別れの会があるというチャペルでは信者さんたちが準備をされていました。

⑤ 築地居留地跡

横浜の居留地は大型船の入港が可能で貿易関係者が多かったが築地居留地は外交官関係と宗教関係者が多くアメリカ長老教会、アメリカ聖公会、スコットランド一致長老教会、カナダ・メソジスト教会、フランス・カトリック教会など 13 のミッション（伝道本部）があり、ここから立教学院、青山学院、関東学院・女子学院・暁星学園・雙葉学園などミッションスクールの多くがスタートしました。暑いなか、それぞれの記念碑を確認。

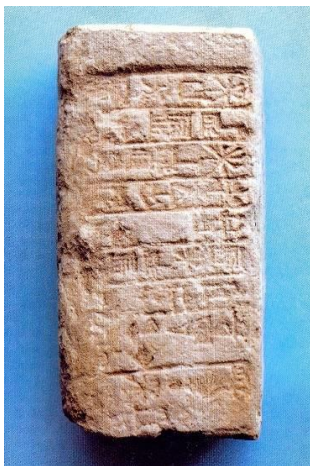
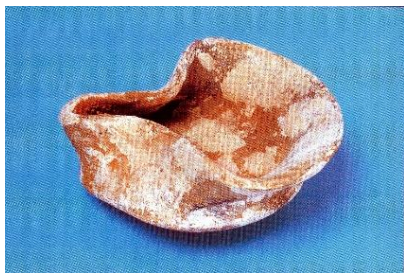
昼食 神田の洋食レストラン 昔ながらのメニューで人気

見学委員は時間のやりくりで苦労しレストランと打ち合わせをしてくれました。

⑥ 聖書考古学資料館

→ユダヤ教 原始キリスト教

ここは大変小さな資料館でしたが、ユダヤ教やキリスト教を理解するためには貴重であり、全歴研の今回の研修のような忙しい日程の研修では不十分で後日個人的に訪問してきました。土曜日と月曜日（午後1時～



6時) しか開かれていません。

展示ではパレスチナ地方がどのような地形かを立体的に捉える工夫がされていました。パレスチナは地形的にはかなりの高低のあるところで戦車などの通り道も限られていて、そこを争奪するために各時代、各民族の戦いが多かったことがよくわかりました。写真は前 10000 年頃のランプとジグラットの焼き煉瓦です。他にも貴重な史料があり、学ぶことの多い「小さな博物館」でした。

理事長：津村俊夫氏はヘブライ文字の研究者です。

JR 御茶ノ水駅から徒歩 入館料無料 03-3296-8889 ホームページにも研究成果が出ています。 <http://www.tmba-museum.jp>

⑦ 明治大学博物館（刑事部門）

→対抗宗教改革

聖書考古学博物館から 1 分ほどで明治大学アカデミーコモンセンタービルがあり地下に「明治大学博物館」があります。この博物館は 1929 年に開設された「刑事博物館」、1951 年開設の「商品博物館」そして 1952 年開設の「考古学陳列館」の 3 つが 2004 年にまとめられたものです。今回のメインは刑事博物館関係で、ここには拷問・処刑の絵や実物展示があり、ギロチン台、ニュルンベルク鉄の処女等ヨーロッパのものも展示されていました。「鉄の処女」は対抗宗教改革の時代に使われた拷問の道具だそうですが、なぜ、ここにあるのかは不明でした。

大学創設者や大学卒業生の功績を記念した展示もあり、ベルリンオリンピックで優勝したマラソン選手孫基禎（ソンキジョン）についての展示もありました。ギリシャからいただいたという「古代の鉄兜」は珍しいものです。孫氏は 1940 年に明治大学を卒業されています。

⑧ 東京復活大聖堂教会（ニコライ堂） →正教会（国指定重要文化財）

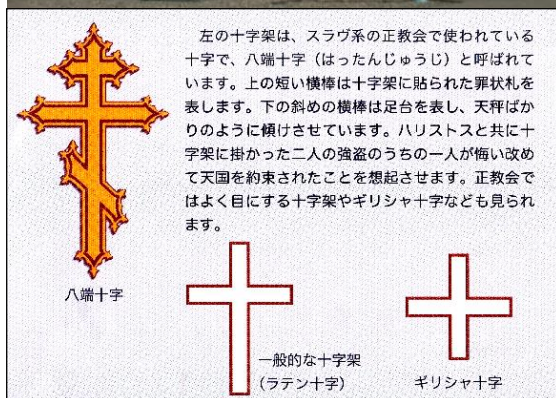
正式名が東京復活大聖堂、この地で布教したロシア人修道司祭ニコライの名から通称ニコライ堂。

日本ハリストス正教会の中心である。原設計はロシア人の建築家であるが実際はイギリス人のジョサイア・コンドルが実施設計を行い1891年に竣工。日本で初めての本格的なビザンチン様式の教会堂で威風と美しさで人々を魅了しました。関東大震災で被害を受け、その後補修と補強を行っています。

創建当時は駿河台の高台に聳え立つ建築としてかなり遠方からも見えたといいますが、今は周囲を高層ビル群に取り囲まれて細々と息をしているといった状態でした。黄色いろうそくが珍しい。

⑨ 印刷博物館 →プロテスタント

この博物館は凸版印刷が100周年を記念して設立した印刷文化に関わる博物館で、様々な内容の展示や実体験で印刷の面白さを伝えてくれる人気のある博物館です。以前の全歴研の研修でも訪問し樺山紘一館長の講演をお聞きしました、今回も館長のお計らいで博物館が所



蔵するキリスト教の聖書の本物を見ることが出来ました。

- 1511 年ヴェネツィア刊「ラテン語聖書」
- 1511 年ニュルンベルク刊デューラー「黙示録」
- 1540 年刊ヴィッテンベルク刊「ルター訳聖書」（ドイツ語）
- 1570 年アントウェルペン刊「多言語対訳聖書」
- 1623 年ミュンヘン刊ニコラ・トリゴー「日本キリシタン迫害史」ーこれは中国で集めた情報で書かれていたー

⑩ 上智大学礼拝堂 キリシタン文庫
→カトリック

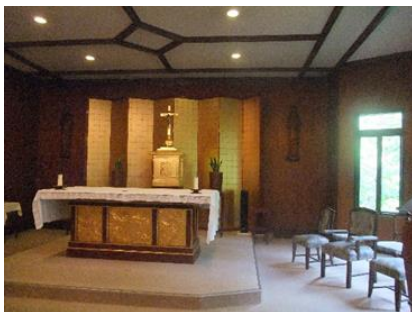
上智大学はローマ・カトリック教会に属する男子修道会の一つイエズス会が設立母体、隣接する聖イグナチオ教会もイエズス会に属しています。イグナチオ教会はイエズス会の創設者イグナチオ・デ・ロヨラに因んでいます。上智大学の設立は日本にキリスト教を伝えたフランシスコ・ザビエルが日本にも大学を造りたいと念願していたことの実現としてとらえられ大学は「12月3日・ザビエルの誕生日」を祝日として休業日になっているそうです。

実際にはイエズス会のドイツ人ヨーゼフ・ダールマンが日本のカソリック信者の願いを教皇につたえ、教皇はこの願いを受け止め、関係者の意見を聞き 1906 年にイエズス会に大学設立を要請しました。1908 年 3 人のイエズス会神父が横浜にきて設立準備に入りました。

イエズス会本部からの援助とドイツのカトリック信者の献金で大学が設立され、1913年3月28日、文部省から設置認可がおりました。

クルトハイム聖堂

イエズス
会修道院の
聖堂で、最初
の授業が行
われたところ
でもあります。
戦争で殆ど全



建物が焼かれたため大学内に現存する唯一の明治期の建造物であり、現在は **Chapel** として利用されています。金曜日には「学生のミサ」も行われています。

キリシタン文庫 大学中央図書館8階

1939 年につくられました。日本のキリシタン宣教史、宣教に伴う日欧文化の交流を研究し、

その知識と成果を普及することを目的にしており、「キリシタン研究」「キリシタン文化研究会会報」なども発行しています。キリシタン関係の展示物として「キリシタン禁制の高札」「マリア観音」などもありました。

⑪ イスラムの学生のための食堂

大学の食堂の一つに案内していただきました。入り口に「ハラル認証」が掲示しており、イスラムのための食堂であると説明をうけました。国際化されている大学ではイスラムの学生も多く、こうした配慮がされているのだそうです。イスラムでなくても利用する学生さんもいるそうです。コックさんはパキスタンの人か？



終わりに

今回の研修は大変ユニークな企画だった
と思いました。

「聖地巡礼」とは何ぞや・・・意味不明なテーマだと思いながら参加しましたが、東京にはキリスト教関係でこんなに多くの史跡や資料館があるのだということに驚きました。世界史関係の見学担当委員の先生方の努力に拍手を送ります。1日にして多くを学びました。

映画「沈黙」について

最初の訪問地「高輪教会」で江戸でも大きな弾圧があったことを知りましたが、少し前に映画「沈黙」が製作され、評判になっていました。遠藤周作氏の原作をマーチン・スコセッシ監督が映画化しました。日本への布教を熱望し、禁教下の日本に潜入する宣教師たち、貧しい農村のくらしの中に見る信仰、容赦のない拷問や処刑……凄惨を極める画面で目をそむけなくなる映画でした。今回の見学の資料ファイルにはこの映画の紹介もありました。

日本中世史の新しい捉え方

—鎌倉幕府と朝廷の関係を見直す—

東京大学大学院人文社会系研究科准教授

高橋典幸氏

2017 年 11 月 25 日（土）15 時より 17 時までの 2 時間強、都立杉並高校社会科教室において行われた標記講演会の要旨は以下の通り。

ここ 20 年程、中世史研究は、特に室町・戦国期の対外関係や流通・貨幣史の分野で著しく進展した。例えば、鉄砲伝来の関わりからは、種子島に漂着したのは南蛮船ではなくジャンク様の船。後期倭寇の活動、そのネットワークに便乗する形でポルトガル人の東アジア貿易が存在したとする視点。また、この頃、日本では信用・貨幣経済が著しく発展するが、中国の貨幣政策と日本の貨幣経済は密接に連動し、それが日本の貨幣経済の波となって表れていること、あるいは、戦国期の貫高制における銭の計算は 100 文単位のはずだが実際には 95 文から 97 文、「省百法」ともいうべき計算方法の存在が発掘の結果想定されたことなどである。

これに比べ鎌倉期の研究は必ずしも捗々しくない。新資料の発見等から幕府と朝廷の関係を見直してみたい。幕府と朝廷の関係の大きな流れは、頼朝の挙兵から建長 4 年の将軍藤原頼嗣更迭までの曖昧な時期、北条得宗家と後嵯峨院の安定した時期、後嵯峨院の失策からくる両統迭立とこれに巻き込まれる幕府そして後醍醐の討幕の動きという 3 つの時期に分けられる。

新資料は櫻井陽子氏によって 2004 年に発見された内大臣中山忠親（1131～95）の日記『山槐記』逸文中の「三槐荒涼抄」である（注）。征夷大將軍になりたかった頼朝は後白河が邪

魔した為なれず、後白河の死後漸く就くことができたとしてきたが、「三槐荒涼抄」によれば、頼朝が朝廷に要請したのは「大將軍」就任。朝廷は惣官、征東大將軍、上將軍、征夷將軍など様々に検討した。結果、坂上田村麻呂の故事から征夷大將軍としたという。従来の解釈は、我々の武家政権への想い入れが強すぎる過剰なものではなかったか。鎌倉初期は軍事権門、寺社権門などの緩やかな連合体ではないかとする考え方があり、一方幕府は東国国家に過ぎないとする考え方がある。1180 年（治承 4）8 月の頼朝挙兵をもって南関東軍事政権成立と見ることもできる。1183 年（寿永 2）10 月の宣旨では、頼朝に東海・東山道の支配を認めているが、この話を進めると東国国家は朝廷の下部組織になる。1190 年（建久元）11 月、頼朝は上洛して右大將に就任するが、10 日で辞任し鎌倉に帰ってしまう。公家達にとって貴族社会に入っていない頼朝とそのグループは理解し難い存在ではなかったか。頼朝の独裁体制下で政策決定に関与したのは貴族出身者であって武士ではない。武士は官位を欲しがったが頼朝は嫌った。御家人役で最も優先されたのは鎌倉大番役ではなく京都大番役。承久の変では源氏将軍の関係者は多く後鳥羽に付いた。四条天皇の外戚であり摂関家の長九条道家の子は第 4 代将軍頼経。幕府内の将軍勢力と北条得宗家の権力闘争、九条道家・頼経による北条得宗家排除と三浦氏擁立計画などは、1246 年（寛元 4）閏 4 月の宮騒動、1247 年（宝治元）6 月の宝治合戦、1252（建長 4）2 月の将軍藤原頼

嗣更迭と後嵯峨院の子宗尊親王の奏請を経て整った。その後の 30 年に及ぶ北条得宗家と後嵯峨院の協調。が、「院政」の本質である自らの望む者を後継者とすることを怠った結果、持明院統と大覚寺統の分立。朝廷はその間の調停を幕府に委ね、幕府は皇位継承問題に呼び込まれることとなる。大覚寺統傍流という立場の後醍醐が登場。後醍醐は子を天皇に就かせるため

両統迭立を精算しようとして討幕へ。一旦消えた北朝を丸抱えて復活させた足利幕府と続くことになる。

(注)「頼朝の征夷大將軍任官をめぐる」櫻井陽子『「平家物語」本文考』所収(汲古書院 2013)

(文責 増田克彦)

都歴研 18 年度春季講演会

中国近現代史をどうとらえるか

東京大学大学院人文社会系研究科准教授

吉澤誠一郎 氏

歴史授業の用語と歴史観

大学受験生の中に、慶応へ行きたいから慶応の全学部を受験するという高校生がいた。文学部は就職に不利なのかと学生に聞かれることがある。何のために大学へ行くのか、大学教育の意義をもっと考えて欲しい。アンケート調査をすると、日本の高校生の最も多い意見は、「大学に入学したら自由を満喫したい」だそうである。大学人としては、「もっと勉強をして欲しい」と言いたい。学問をするための大学教育であり、学問という知の世界に関心を持って欲しい。

センター入試で、年々、世界史受験者が減少している。世界史はつまらないし、点が取りにくいという評判が受験者にはあるようだ。しかし、文学部はもちろんのこと法学部や経済学部の文系大学教員の考え方は、世界史の知識は必要だというのが普通の見方だと思う。歴史教育の反省が必要で、暗記中心から見方考え方を重視する授業を行い、歴史に関心を持たせることが大切である。

使用用語の厳選が必要であり、中国近代史では「軍閥」という用語が使用されており、否定的に悪口として使用された言葉を機械的に生徒に覚えさせてもよいのかという問題がある。「アロー号事件」という用語は、第二次アヘン戦争とした方が説明がし易く高校生には分かりやすい。高校生は「アロー号事件」は知らなくてもよいと考える。

「新中国」の成立に至る歴史を描き出すという営みが今も継続している。中国革命重視の人々の考え方は、清朝は 19 世紀に衰亡の一途をたどったが第 2 次アヘン戦争以後の 1860 年代にはかなりの建て直しに成功し、日清戦争時にはその勢力は強く、半島情勢に介入した。20 世紀に入ると、内政改革を熱心に進めたが、国内情勢のバランスを崩してしまい革命を引き起こして滅亡した。その後成立した国民党政府は、アヘン戦争時に失った関税自主権の回復に努めた。

近代化の日中比較について

私は 20 年前にイギリスに 1 年間滞在したこ

とがあり、その時、イギリス人学者も中国の洋務運動と比べて日本の明治維新の「成功」例を指摘していた。

16世紀～17世紀はグローバル化の時代で、アジアにもカトリック教が宣教され、中国には海外から銀が流入し、経済が回る時代となった。17世紀の徳川政権の日本は、日本人の海外渡航は禁止され（鎖国）、貿易は長崎に集約され、キリスト教は禁止された。また、ポルトガル人により日本に伝来した鉄砲や大砲の技術は、ポルトガルが直接開発したわけではない。

18世紀の両国は、比較的平和な時代で、日本では徳川政府による安定した統治が継続し、清朝下の中国（乾隆帝の時代）では、人口が何倍にも増加し国力は増強した。しかし、両国の社会経済の仕組みがそれぞれ基本的に異なっていた。

この時代の日本は、清の冊封体系には組み込まれていないが清とは貿易（朝貢ではない）はしており、実際に清の冊封体制下にあった国は3国～4国といわれ、朝鮮や琉球は朝貢国であった。また、徳川政権下の日本は国際マーケットから切り離されていたが、しかし、国内市場の萌芽は育ち始めていた。

一方、この頃のヨーロッパ諸国では、絶え間なく戦争が続き、そのために科学が軍事に活用され武器の発達が見られた。

18世紀の清朝では、東南アジア方面へ華僑として遠隔地への移住者が多く見られたが、しかし、国内マーケットが一つにまとまるという傾向は見られなかった。

19世紀国際環境への適応

19世紀に入るとヨーロッパ諸国のアジアへの積極的な進出が見られるようになり、この時、日本と中国では異なる適応が見られた。アヘン戦争では、汽船に象徴される西洋の軍事技術の優勢が強調されるが、大砲の改良にしてもどれだけ実戦に利用されたかの違いで、アヘン戦争に登場する東インド会社船籍のネメシス号の

火力が勝っていたとの説明は行き過ぎである。当時の軍艦の積載砲門数は40門～60門であるところ、ネメシス号は僅か4門～5門であった。この時に使われたインドのCongreeロケットの改良も、多くの実戦を経た結果であった。また、アヘン戦争時のイギリスは、アジアの地形に合った船舶を使用することに優れていたのであった。

第二次アヘン戦争後、清朝はイギリスとの協力政策を推進し、イギリスの税務司制度等を採用し、外国貿易の好調により関税収入は増加した。

一方、日本ではペリーの黒船来航により徳川政権は衝撃を受け、政権を失った。実は、このペリー艦隊は4隻とも蒸気船ではなく2隻は帆船で構成されていた。明治維新は、新しい政治・社会制度を構築していく上で大きなフリーハンドを持っていた。清朝が住民名簿もなく、土地所有関係も不明確で税収不確実であったのに対して、明治政府は、江戸時代以来の発達した行政の仕組みを継承すればよかった。日清戦争時の日清の対立は、清朝が朝鮮半島への政治介入を強化した結果日本との対決に至ったのであり、近代主権国家体制と冊封体制との対立ではない。軍拡競争の点から言えば、明治維新後の日本の方が優勢であった。

日清両国は、それぞれそれなりに19世紀の国際環境に適応しようとしたのであり、明治維新の「成功」例を強調しすぎることは如何なものかと思う。

（文責 豊田岩男）

友の会だよりへ投稿のお願い

例年同様7月中に発行します。以下の要領で会員の皆様の原稿をお待ちしています。

内 容：研究要旨、資料紹介、書評、紀行文等何でも。

字 数：2000字～3000字

著作を刊行された場合には書籍そのもの、または要旨をお送り下さい。紙上でご紹介します。

送付先：〒191-0033 日野市百草971-158 増田方

東京都歴史教育研究会友の会事務局

原稿はメールでお送りいただくと助かります。

送付先は別途ご案内しますのでご連絡ください。

東京産業考古学会

文献調査メモ

日 時:2018年2月4日(日) 16:30~18:00

場 所:板橋中央図書館

調査者:多田統一(理事)

調査対象文献:

・酒井陽太『ものづくり日本の源流』方丈社
2016年11月発行

・荒井秀夫『年表で見るモノの歴史事典 上』
ゆまに書房1995年11月発行

調査内容:

・江戸時代のたばこ道具は、職人技術との関連で文化的な視点から、博物館・資料館で保存展示が行なわれている。

・酒井家考案の葉たばこ刻み機の登場により、日清・日露戦争後の好況で需要が増大する中で、高品質のものが機械生産により安定供給されるようになった。葉たばこ専売法が施行されたのは、日清戦争の3年後のことである。産業技術史上、たいへん興味深い点である。

・しかし、第一次大戦後の好況により紙巻きたばこの需要が増大し、刻みたばこは減少の一途をたどる。

・1979年、「ききょう」の販売終了をもって、細刻みたばこは姿を消す。徳島の池田工場が、最後まで頑張っていたことを、徳島新聞で読んだことがある。

・当時、横田忠夫氏(たばこ栽培の研究者で、都立大学大学院時代の私の指導教授・故人)と一緒に、四国のたばこ耕作農家の調査をしたことがある。

・産業考古学では、機械遺産(たばこ製造機械)という視点が強いが、たばこ栽培から販売に至る産業連関を考慮した保存の体制が必要である。たばこ栽培の道具、建物や設備としての乾燥室、たばこ屋の看板や価格表など、総合的な視点があつてこそたばこを語ることができるのではないだろうか。(文責・多田統一)

会員著書紹介

増田克彦著

『国分寺跡を巡る』

——色なき風に誘われて
僧寺・尼寺全国137ヶ所の記憶——

東洋史を専攻した著者の40年に及ぶライフワークとも言える旅の完結。国分寺高校に勤務したことから思いついたテーマとのことである。

北は出羽

国(酒田市)、陸奥国(仙台市)から南は大隅国(霧島市)、薩摩国(薩摩川内市)にいたる淡路島・佐渡・隠岐島・壱岐・対馬・種子島といった島嶼を含め全国69ヶ国の僧寺跡・尼寺跡、その推定地・推定地域・参考地・伝承地計137ヶ所と周辺の神社・仏閣・歴史的遺産などを巡る歴史紀行。

全国国分寺配置図、特徴的な伽藍配置図、関連史料、参考文献、略年表が添えられている。

文中にある240葉余の写真は著者の手によるもの。カバーの表写真は隠岐の島町教育委員会提供による伝隠岐国分寺出土軒丸瓦、裏は著者撮影によるイランイスラム共和国ペルセポリス遺跡百柱の間のレリーフ。

2018年2月 郁朋社刊 A5判並製
412頁折込3枚 定価1,500円+税



滝山城址探訪

小澤 拓 美

古城歩きを好むものではないが、今まで多くの城を訪ねた。しかし、落城の悲劇の舞台は辛いものがある。解説板に「敵が攻めてきたらこう守ります」などと書いてあったりするが、その城があっけなく陥落したのはなぜか？は、ほとんど語られない。あるいは、実戦が一度もなかった城の守りを誇ってもあまり意味もないだろう。

そんな城談義のなかで、私のお気に入りには2つ、結城城と滝山城である。両者とも実戦を経験し、前者は結果的に敗北したものの約1年持ちこたえた。後者は圧倒的な敵軍を退けた。結城城跡に初めて立った時も感動したが、滝山城も首都圏にありながら16世紀の遺構が良好に残っている奇跡の城だと思う。

1 滝山城の成立

ここは、地元の土豪・大石定重が1521（大永元）年に築いたと想定される城である。やがて、小田原に本拠を置き関東を支配した北条氏に屈服し譲り渡した。北条の当主は早雲→氏綱→氏康→氏政→氏直と続き、そのうち4代目氏政の弟・氏照が、大石定久に代わって入城し、大規模な改修をする。これは、1567（永禄10）年ごろと考えられる。この時の形が、ほぼそのまま今日に伝えられている。

2 滝山城の特色

北に多摩川が流れる丘陵に位置する。本丸の最高点は標高169mで、北側は比高70mの急な崖である。南側の滝山街道沿いの城下町とは比高40mである。広さは東西・南北とも約750

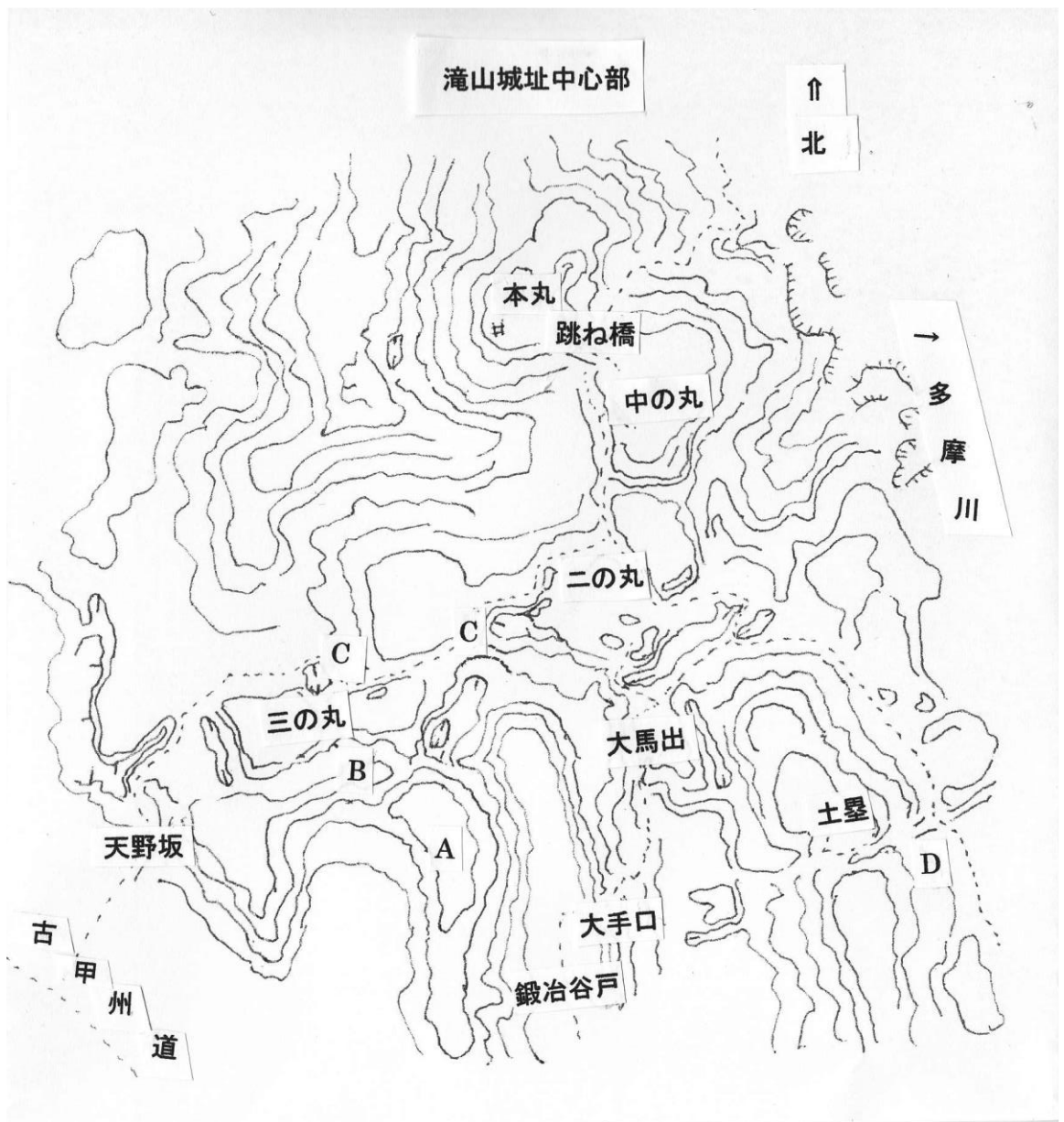


復元された跳ね橋

m。大手門は、A（現：御嶽神社）の東側の谷（鍛冶谷戸）にあったと考えられる。大馬出（おおうまだし）は敵に対する突撃拠点である。そこに登って、二の丸・中の丸を通って、跳ね橋を渡れば本丸に至る。跳ね橋を渡ったところにある虎口では16世紀の石畳が発掘されて、現在は埋め戻した上に復元されている。

3 武田軍の攻撃

1569（永禄12）年10月に甲斐の武田信玄は、後北条支配下の武蔵・相模へ侵攻した。信玄の家臣が山梨県上野原の神社に納めた棟札によれば「滝山城を攻め、周辺に火を放ち裸城にした。本陣は本郷に置いた。その後小田原を攻め、城下を焼き払った。」とある。一方、守る側の北条氏照の手紙によれば、「城下の町に駐留していた武田軍に攻めかかって、際限もなく多くの敵を打ち取った。戦い三日めに、大きな犠牲を出した敵は引き下がった。」とある。この二つの史料にくらべて、甲陽軍鑑は、やや信憑性が薄い（物語の要素が強い）が、記述は具体的



だ。その甲陽軍鑑によれば「武田側は、息子の武田勝頼を大将として滝山を攻めた。信玄は、拝島に本陣を置いた。滝山城の三の曲輪を攻めちらした。これに対して守備軍の北条氏照は、二の曲輪にある二階門に上がり采配をとって、ここを最後と守り抜いた。」とある。

4 滝山城の防御構造

大陸の大平原における戦いと違い、日本における昔の戦いは自然の地形をいかに生かすか、が重要であった。ここに、山城の様々な工夫が

生まれた。それは、土塁、空堀、水堀、左右の軍兵の連絡を絶つ堅堀（たてぼり）など、地形を複雑に加工した。これら防御施設によって守られた一角を曲輪（くるわ）と言う。これは軍事的な砦、政治的な役所、そして城主・家臣の住宅という3つの役割を持っている。

滝山では、本丸を含め17の曲輪が確認されている。戦時の場合、まずは大手門から敵軍が攻め寄せるだろう。そこから二の丸方向に登る正規の入り口は狭く、大軍は一気に登れない。敵軍は沢の奥へと押し込まれる。そこへ高台か



中の丸跡から多摩川方面を望む

ら矢が射掛けられて敵軍をやっつけるということになる。この場合、敵の右側から攻撃するのが重要である。なぜなら、攻める方は、左手に弓を持ち右手で矢を射るから、右の敵は攻撃が難しい。このように、＜敵の右＝攻撃側からは左＞を攻めることを「左掛かり」という。山城は、そして近世城郭においてもこの「左掛かり」の構造を見ることが大切である。では、大手門以外から攻めれば良さそうだが、それにはいろいろな仕掛けがある。たとえば、大手門から北東の尾根を越えた沢には、水をせき止める土塁が作られ、人工的な沼地が作られていた。池よりも沼地のほうが敵を防げる。なぜならば舟を浮かべられないから。土塁のあととは、現在でもはっきり確認できる。また、本丸の西の沢にも、沼地をつくるための土塁跡が見える。南西に延びる尾根は、現在は気持ちのよいハイキングルートだが、途中に不自然な橋 D がある。人工的に尾根を断ち切った跡だ。そうと知らずに、ここを攻め寄せた敵は、谷に転落するか向かい側にある曲輪から容赦ない射撃を浴びることになる。

5 武田氏を撃退

では、武田軍はどのようにして、三の丸を取ったのだろうか。この詳細は全く史料が残って

いない。そこで、あくまでも私の想像だが、当然まずは大手門方向にそれなりの兵は送ったであろう。そのうえで、三の丸周辺で、もっとも手薄な尾根 B に軍勢を集中してこの尾根を確保したのではないか。その尾根の北端からの援護射撃に助けられて、天野坂を確保して三の丸に攻め入ったと思われる。しかし、武田軍の攻撃もここまでだった。

三の丸および二の丸には深い四角い空堀 C が二つあり、攻撃軍はその周りを一列になって進まざるを得ない。それらはすべて、左掛かりの射撃にさらされる。滝山城の様々な仕掛けのなかでも、特に巧妙にできているのがここである。武田軍は第一の空堀は突破したかもしれないが、二の丸直下の第二の厳しい空堀は攻めあぐんだことだろう。

甲陽軍鑑に描写される、城主北条氏照が指揮を執った二の丸の二階門の位置は、発掘でも確証は得られていない。しかし、大手門のルートから二の丸に上がったところに2つの微高地が見られる。ここに門を置かずしてどこに置くのか、と思える。一方、勝頼は二の丸の真下まで攻めたとのことで、両軍の大將はまさに顔の見える範囲で戦った、ということになる。

6 滝山城のその後

武田との戦いのあと、1580年代後半には北条氏照は、八王子城を造ってそちらを本拠とする。ここは、武蔵と甲斐の国境に近く、武田軍の侵入をいち早く防ぐためだったといわれる。しかし、1590（天正18）年の豊臣秀吉の大軍の前に、八王子城は一日で陥落した。一見すると堅固な八王子城が何ゆえに簡単に陥落したのか、について私見はあるが別の機会とします。

滝山を訪れたときは、ここに繰り広げられた歴史ドラマを思いつつ、戦国のツワモノたちの気持ちで歩かれてみるのも一興かもしれません。ご希望の方がいれば、ご案内いたします。

※付記1 現地近年建てられた案内板では、天野坂を大手口としている。しかし、私が書いたのは「新八王子市史」（2014.3 発行）に基づいています。案内板は中田正光氏の説によりますが、おおむね次の理由からこの意見には賛成できません。

a 天野坂では、城の正門を古甲州道（現：滝山街道）に直接向けることとなる。戦国期の城としては危険すぎる。街道から脇にそれた独立した城下町の一面に持つというほうが自然である。

b 大手口の風格に欠ける。城主の館である城は迎賓館的役割もある。客を迎えることを考えると、南に丘（現：創価大学方面）を望む天野坂は閉塞感がある。本文で大手口としたところは、南東に開けていて品位が高い。

c 「市史」に指摘されているが、曲輪の配置から言っても鍛冶谷戸が防備上適当と考えられる。

※付記2 新田次郎の小説「武田信玄」に滝山城が出てくる（文春文庫版・火の巻・P316～319）。これによれば、開戦当初北条軍は多摩川の河原に討って出て、武田配下の小山田信茂軍と交戦、北条側が戦死者251を出したとしている。さらに開戦5日目に勝頼自らが三の丸まで攻めのぼり、北条側の師岡兼高と直接対決したとある。その夜に信玄は兵を引かせて、全軍を小田原攻略に向けたとのことである。作家の創作がかなり入っているが、これに近い状況は考えられることである。

※付記3 地図は「多摩オリエンテーリングクラブ」作図の「滝山城址 2009」に基づいています。

（掲載の写真は重政）

辺野古・高江 のたたかい

「沖縄基地めぐり」で見たこと

松家直子

3月28日～30日に、日本生活協同組合連合会主催の「第35回沖縄戦跡・基地めぐり」に参加

した。辺野古の新基地建設と高江のヘリパッドの現状を知りたいと思っていたので、利用している生協のチラシに載っていた案内に飛びついたのである。

全国の生協から187人が参加し、事前勉強会・初日の学習会と講演「沖縄戦の体験をきく～対馬丸事件」を経て、二日目、辺野古・高江コースのバスに乗った。

辺野古の座り込みテンド

ガイド役の沖縄平和ネットワークの山野榮さんによれば、米軍は1966年から辺野古基地建設計画を進めていて、ベトナム戦争による財政難で中断していたのを、1996年以降普天間飛行場の移設と結びつけて、今度は日本政府の全額負担で建設を強行しているという。

辺野古漁港に面した座り込みテンドで、ヘリ基地反対協議会の田中さんに話を聞いた。座り込みは1989年に始まり、これまで7700余日にわたって建設を阻止してきた。昨年4月から始まった護岸工事は、建設しやすいところに手をつけただけで、（全体のわずか4%）、広大な埋め立て予定区域には、2本の活断層もあり、工事はいずれ頓挫すること、サンゴの最適地である大浦湾の自然を壊してはならないことなど、力強い訴えに共感した。

近くに見える護岸工事のクレーンが止まっているのは、ちょうど天皇・皇后が沖縄を訪問しているからで、キャンプ・シュワブのゲートへの土砂の搬入も止まっているため、ゲート前の座り込みテントは閉じられていた。

今年1月に国立市公民館で上映された「辺野古ゲート前の人びと」(藤本幸久・影山あさ子共同監督 2017)で、「毎日午前3時に起きて座り込みのための弁当を作るのよ」と明るく語っていた女性に会いたかったのだが、かなわなかった。

やんばるの森に米軍ヘリパッド

辺野古から1時間半北上すると、やんばるの森のイタジイの緑がだんだん濃くなり、高江に至る。米軍がジャングル戦闘訓練センター(北部訓練場の正式名称)の使用不能の部分の返還する代わりに、日本政府(沖縄防衛局)が、高江の集落を取り囲む6カ所の新しいヘリパッド(オスプレイ発着用)を、激しい抗議運動を押し切って完成させたのが、2016年12月。とくにこの年7月22日(参院選直後)に始まった1000人の機動隊を動員した弾圧のすさまじさについては、藤本・影山両監督の「高江～森が泣いている2」

(2016)で見たばかりだった。マイクを握って抗議の先頭に立っていた山城博治さんが逮捕されたのはこの時(10月)で、5カ月間も拘留され、保釈後も現場に行くのは禁止されたため全国を回っている中で、今年1月に国立市公民館に来てくれたのだ。

高江N4パッドのゲート前の座り込みテントで、ヘリパッドいらない住民の会の安次嶺雪音(あしみねゆきね)さんに話をきいた。

三上智恵監督の「標的の村」(2013)で、やんばるの自然の中にカフェを開いて6人の子を育てながら夫の現達さんとともに闘っていた、あの雪音さんに会えたのはうれしかった。家から500メートルの所に2014年N4パッドが完成してからは、あまりのオスプレイの騒音と墜落の恐怖に耐えかねて、子どもたちは村外へ避難させたそう。

ヘリパッドはできてしまったけれど、グアムや



フィリピンの基地に反対する人々とも連帯して、ヘリパッド使用中止と訓練場全面返還の声を上げていきたいという決意に勇気づけられた。オスプレイが飛ばなければテントを揺すって風が過ぎるだけの本当に静かなところだ。

不屈の魂と抵抗の精神

ここで購入した写真集「高江が潰された日」(沖縄平和サポート 2017)に載っていた住民の会の声……漆職人の伊佐育子さん「いくらお金つぎ込んだって機動隊送り込んだって、運動を終わらせられないんだということを高江から発信できたと思う。それは辺野古にも繋がっている」。雪音さん「不屈ですね」。

この不屈の魂と抵抗の精神が沖縄の人々の意識の底を支えていることが、旅から帰って4月3日に見た「米軍(アメリカ)が最も恐れた男～その名はカメジロー」(佐古忠彦監督 2017)でよくわかった。那覇市長として国会議員として米軍の圧政に立ち向かった瀬永亀次郎さんが克明につけていた日記にそれが感じられた。(2018.5 記)

『なにわ日記』奈良・京の旅

江戸時代、名主の伊勢参宮日記から

重政文三郎

町田市小野路の旧家小島家に遺る古文書の中に、小島政敏の『なにわ日記』と名付けられた旅日記がある。

当時小野路村の名主であった政敏は文政13年(1830)1月4日から2月17日までの約1か月半にわたる大きな旅行を行った。この旅行の目的は、「お伊勢参り」ということであるが、東海道を行く途中に久能山や秋葉山、それに鳳来寺山に立ち寄っているし、伊勢参宮の後には奈良・吉野・高野山をめぐり、さらに堺から大坂・宇治を経て京の都を訪ねた。帰路は比叡山から近江を経て、東海道を下って来るという、当時もとてもポピュラーな観光コースを辿ったのであった。

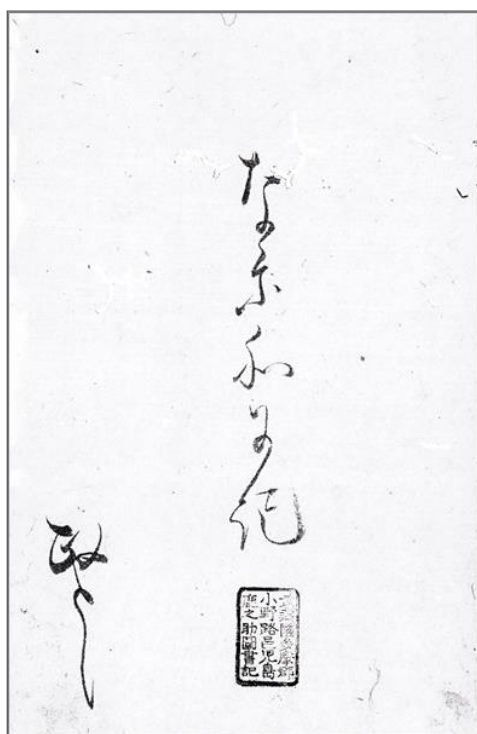
この旅日記を読み下していく中で、調査してわかったことを、いくつかを取り出して紹介してみたい。

奈良二月堂と唐招提寺

政敏一行の旅は、伊勢神宮を参拝したあと奈良の寺々を詣でて、吉野から高野山、大阪・京都を巡る旅だった。奈良に入ったときに次のような記述がある。

■「少しの坂を上り奈良へ入る。せいろふ堂(鐘楼堂か)、大仏。二月堂の舞台に出でて向いの方、古(いにしえ)の天皇のあととて高所に寺あまた作り並べある見ゆる。二月堂の御仏の尊さよ。春日野、手向山、猿沢の池、三笠山、古人の読みけん歌ども思い出して偲ぶになお余りあり。」

奈良では、当時名所とされたところを次々とたずねたのであるが、東大寺二月堂の舞台へ登り、古代の都の跡をはるかに望むところで、「二月堂の御仏の尊さよ」と感動を記した。



私もその十一面観音像を拝みたいものと思い、奈良への旅行の機会があったので、二月堂で寺の人に聞いた。けれども残念ながら現在では誰も見られない秘仏だと断られてしまった。ところが、政敏の時代には拝観がかなっていたのだ。

次の日も奈良の寺々をめぐっている。

■「今日より廻りせんとて、法華寺、西大寺、池の岸に古百万の柳ありし跡今はなし。一本二本(もと)ばかり残る。いともつれなしや。蓬萊山梅・松・竹など有るとかや。正大寺、三国の土もて作る壇あり。この壇を踏む者は、犯せし罪も消ゆとなん」

「正大寺、三国の土もて作ル段有。此段をふむ者ハおかせしつミもきゆとなん」のくだり、唐招

提寺の戒壇のことではないかと思いつき、唐招提寺の寺務所を訪ねて僧侶の方に聞いた。僧侶は親切に対応してくださり、「正大寺と書いたのを見たことがある。やはり江戸時代の日記だった」とのお話があった。戒壇の建物は嘉永2年(1849)に焼失したそうだ。その後建物はなく露天になっている。そうすれば政敏が訪ねた時は戒壇院の建物は建っていたことが判った。本来戒壇は僧侶に戒律が授けられる神聖な施設であるが、その壇の上に人々は上がることも出来ていたのだろうか。「この壇を踏む者は犯せし罪も消ゆとなん」と政敏はこの時書いた。「そのような教え方もしたのでしょいうね」と僧侶はおっしゃった。

吉野山・西行の風景

奈良から多武峰を越えて吉野川を渡り吉野山へかかっていくときに政敏が詠んだ歌。

くち残るこそこのしほりをしのぶにも
あまるよしのの山の奥かな

「こそこのしほり」というのは、去年この地へ来たときに木の枝を折って道しるべとしたことを指している。そうすると、いま吉野へ来て西行の歌「吉野山こそこのしをりの道かへてまだ見ぬかたの花をたづねむ(西行)」を思い浮かべ、それを念頭に置いているのではなかろうか。蔵王権現や吉水院で、源義経の昔をしのび、さらに山の奥をやった。

■「西行とくどくの庵は五十丁ほども奥の方とや聞く。松・杉の木末に立ち混じり、桜多く植えたり。一目千本、谷深くむかつ尾の峯、又小さき庵見ゆ。こは花の盛りのころ行ゝしのぶ所と見ゆ。」

と日記に綴っている。

西行の名をあげて「とくどくの庵」はここからさらに山を奥へ入ること五十丁もあるか、と立ち尽くしているさまである。現在一目千本といわれる桜の名所から、さらに入って奥千本といわれるところである。谷は深く向こう側の尾根の山腹に「小さき庵見ゆ」と書いているから、すくなく



奥千本の奥に西行庵。ここに至る山腹に苔清水がある。

とも西行が庵を結んでいたところがあそこだとわかるころまでは山を分け入ったと思われる。

ここで「とくどくの庵」というのは、西行の「とくどくと落つる岩間の苔清水くみほすほどもなきすみかな」という歌にあるように、西行庵の近くの谷あい湧き出る「苔清水」のことを指している。この清水のことは芭蕉も「露とくどく心みに浮世すゝがばや」と詠んでいる。

吉野といえば花、西行はあくまでも花を詠む。「吉野山こずえの花を見し日より心は身にもそわずなりにき」(西行)。政敏が訪れたのは春とはいえまだ1月であったから、花の盛りのころを思いやるしかないのである。政敏は記す。

■「睦月末なれば梅さへ雪をつつみてにほいつれるれば、桜は、

おもへどもつれなきものハミよしのの
無月のころの桜也けり」

と、梅の花でさえ雪に包まれながらも匂いを放っているというのに、いまこの季節では桜は「つれないものだ」と悔やんでいるのである。

京の旅・あだし野と愛宕山

吉野の次は高野山から堺を経て大坂、淀川をさかのぼり宇治を経て京に入った。京では三泊したが二日目の日記。

■「同じ泊り。うつ政薬師、あたこ山殊の外難儀、みはらしよし高尾遠見秋おもひやらる、あだしの念仏寺、あだし野の露と詠みけん昔忍ばる。」

この日政敏は太秦の薬師を拝観して、その奥にある愛宕山へたいへん難儀して登った。上がってみると見晴らしはよく高雄方面がよく見えた。秋の紅葉がきっと美しいのだろう、と思いをはせ

ている。地図で確かめてみると、愛宕山の麓には「愛宕念仏寺」がある。山は「あたご」山だが不思議なことに寺は「おたぎ」と読む。お寺で聞いてみると愛宕念仏寺は大正11年に山城国愛宕（おたぎ）郡から移転してきたとのことであった。政敏が訪れたのは「あだし野念仏寺」だけで「おたぎ念仏寺」は存在していなかったのだ。鳥居本の町並みを抜けて下ると化野（あだしの）念仏寺がある。現在は二つの念仏寺は隣り合っているのだ。化野は京都のはずれにあたり、昔は死人をここに捨て野ざらしにしていた。弘仁2年（811）に空海は野ざらしの遺骸を埋葬し、五智山如来寺を建立した。後に法然が念仏道場を開き、念仏寺となったという。政敏はここに寄ったのだ。政敏はここで「あたし野の露ときえけんむかししのはる」と感慨を記している。「あだし野の露」は人生の無常を物語る言葉として古来使われてきたことを踏んでいる。ちなみに『徒然草』十段には「あだし野の露消ゆるときなく鳥部山の煙立ち去らで……昔しのばる」というくだりがある。

祇園・三十六歌仙の絵馬

京の三日目に

■「きおんあかく青くぬり立たり、三十六歌仙のゑまかけならべたる見事なり」

とある。

政敏は「三十六歌仙」のどんな絵馬をどこで見たのだろうか。まず「祇園」というのは、八坂神社が昔「祇園社」と呼ばれていたことから、今の八坂神社を参詣したのだとわかる。しかも『京名所図会』では祇園社には絵馬堂があるのがわかった。そこで私は、思い立って八坂神社を訪ね宮司さんにお話を伺ったところ、宮司さんは強い関心を寄せて下った。

八坂神社が祀っている牛頭天王とはスサノヲノミコトで、短歌の神でもある。五七五七七の短歌形式を初めて整えたのはスサノヲの「八雲たつ出雲八重垣妻ごめに八重垣つくるその八重垣を」の歌だということが古今集仮名序に書いてある。だから八坂神社は和歌にゆかりの神社だ、と教え

ていただいた。なるほど、だから「三十六歌仙」なのか、と納得した。

次に、八坂神社には屏風に仕立てた三十六歌仙の絵が大切に保管されている、と言われ、その写真なども見せていただいた。狩野信政画・飛鳥井正章筆の絵である。しかし政敏が見たのは社殿に懸けられた絵馬である。屏風ではない。このことについて宮司さんは、承応3年（1654）祇園社の改築の時に幕府が寄進した



『祇園社景観の変遷』京都女子大刊より

神宝の請取帳という古

文書を示してくださった。そこに「歌仙絵六枚」とあり「拝殿」とも書き添えてある。そのことから、

「旅の人が見たのは絵馬堂ではなく舞殿（拝殿）に掛けてあった絵馬であっただろう。のちに神社では保存のために屏風仕様にしたのではないか」

とのことであった。神社の古文書には「細金泥彩色金箔地緑墨漆塗減金鏤有」とも書き込まれており、舞殿で政敏が仰ぎ見たこの扁額の見事な色合いを想像できたのである。

『源氏物語』の風景

政敏はこの旅の間、何度か源氏物語の風景を見ていた。長谷寺を訪ねて日記に残したことは、

■「長谷観音へ行く。二本の杉今に栄え、布留川のふりし跡ども、回廊のありさま、いと尊し。」

ということである。この「二本（ふたもと）の杉」とは何であろうか。

夕顔の侍女だった右近が、夕顔の忘れ形見・玉鬘と出会った場所が、この二本の杉と設定されている。右近は玉鬘に、「二本の杉の立ちどを尋ねずは ふる川のべに 君を見ましや」と詠んだ。ここで「ふる川」は初瀬川の支流であり長谷で合流している。政敏も布留川の古めかしさを述べている。二本と合流、二人の巡り合いを掛けている。これに対して玉鬘は、「初瀬川はやくのことは 知らねども 今日の逢う瀬に身さへながれぬ」と返したのである。

また、伊勢から奈良・吉野・高野山を経て紀見峠を越えた時、

■「峠を下りて左の方、海見ゆ。伊勢を出て十四日の間、山坂難儀、言ふもさら也。初めて海面見へいと嬉し。淡路島、須磨、明石の方ゆかし。」と感嘆したのも、「須磨、明石」という源氏物語の舞台をはるかに見ていたのであろう。

京都で祇園社の次に清水寺を訪れた。

■「清水観音舞台の見おろし、上り下りの人々あまた。古（いにしえ）ひかる君のもふて給いしことなど思ひ出てしのぼる」

と書いている。清水寺の舞台に立った時に政敏が思ったことは、「光る君」すなわち『源氏物語』の一場面であった。

“ある夜悪霊によって夕顔が死んだ。東山の鳥辺野のあたりの小屋に移した夕顔の亡骸を、源氏はただ涙にくれて見つめている。ただでさえぞつとするような山中である。近くの清水寺のあたりだけは、光が多く見えて僧侶や参拝客がたくさんいて賑わっていた。（『源氏物語』夕顔の巻から）

政敏が思ったのは、この時の源氏の心象と清水寺の賑わいの対照的な風景だったのではないか。

政敏はまた、近江の石山寺を訪ねて、「げにや秋の月と詠みけん人もかしこしや」と感慨をつづった時も、十五夜の石山寺で源氏物語の書き出しの構想を得たという紫式部のことを思い浮かべたに違いない。

「旗振り山」を見た

京都から帰りの東海道は鈴鹿峠を越えて坂ノ

下あたりで振り向くと、「鈴鹿山の右に木無く芝山のいと高き」があることに気づいた。

■「鈴鹿峠の右に高山有り。里人に問うに、こは大坂の町の米・油・その外物の相場・高下を知らする時、大坂の高山登り旗を出し振り、それを京の高山に待ち取り、同じく振る。またこの山上に待ち取り振る。近国は申すに及ばず名古屋あたり迄も一時に相場の上下を知る事と教ゆ。何月何日何時と□□に登り、遠眼鏡にて見待るとなん。いと珍しき物語ゆへここに記す」

政敏は地元の里人に尋ねてみたところ、この山は相場山といって、大坂の町の米や油などの相場の上がり下がりを知らせるために、この山に登り旗を振って知らせるのだという。大坂の高山に登り旗を振り、京の高山に登ってそれを待ち、次に旗振り送る。そしてまた山上に待ち、次々に継送するという。「近国は申すに及ばず名古屋あたり迄も一時に相場の上下を知る」ことができる、と聞いた。政敏は、旗振りの通信をキャッチするために望遠鏡も使われたことも聞き取って、たいへん珍しいことなので書き取ったといっている。

2015年の朝の連ドラ「あさが来た」で、大坂米会所のやぐらの上で旗を振っているのを見た白岡あさが「あの旗は何ですやろ」と問うと五代友厚が「あれは相場を知らせちよっとじゃ」と教える場面があった。慶応2年（1866）の設定であった。政敏が聞いたのは文政13年（1830）であるから、40年も前のことだ。

柴田昭彦氏の『旗振り山』の研究によれば、米相場の数字を暗号化して手旗信号で送った。大坂から発して、西では神戸から広島方面まで、東は名古屋方面まで「相場山」「旗振山」が確認されている。送信時間は、大坂から京都まで4回の送信で約4分だという。

政敏自身、江戸には近いとはいえ多摩の農村にいて、このような大坂の情報伝達技術を旅先で聞き知って、たいへん驚いた様子が「なにわ日記」に読み取れたのである。

友の会 第12回総会の報告

東京都歴史教育研究会友の会の第12回総会を、6月23日（土）都立杉並高校を会場として開催しました。

総会議事は、世話人代表挨拶から始まって、第1号議案から順次審議を進めました。

① 事業報告

- ①「友の会だより」11号の発行、
 - ②ミニ巡検研修「王子駅周辺散策」、
 - ③都歴研に対して「歴史教育研究助成金」を贈呈、
 - ④会員による学習会「近世文書講読会」の開催、
 - ⑤友の会史跡見学会「さきたま古代から近代を巡る」を実施、
- 等の友の会独自企画の実施が報告されました。そのた、都歴研・全歴研の行事への会員の参加状況なども報告されました。

② 決算報告

矢島恒之会計担当から、会費納入46名のほか、寄付をいただいた方9名があったことが報告されました。決算報告、監査報告が了承されました。

③ 世話人選出

今年度の世話人は、引き続き次の11名です。
小澤拓美 木村清治 黒田比佐雄 鍵山充尚 重政文三郎 竹内秀一 多田統一 豊田岩男 増田克彦 村木逸子 矢島恒之

④ 事業計画

今年度は友の会独自企画として国内の研修旅行を実施します。その他、ミニ研修や学習会を企画します。（別項参照）

⑤ 2019年度予算

会費振込料を本会負担としたことによる郵送費の増加など予算の増額が必要となり、それらをふまえた予算案（別掲）が提案され了承されました。

⑥ その他

退職年齢の高齢化、会員数62名を頭打ちに減少、役員の後継者不足、都歴研への都の助成金があり本会からの支援が無用となったこと、などの状況から、今後の友の会の展望をどう開くか議論されました。別途会員の皆様のご意見を伺います。

佐原・香取への旅 ご案内

期日：10月27日（土）

出発：東京発8：10（品川発8：00）

成田で乗り換え（待ち合わせ10分間）成田発9：41→佐原着10：10 佐原駅前→（タクシー15分）→香取神宮（約1時間）→（タクシー15分）→佐原市内巡見・散策（徒歩・途中昼食）
見学場所：伊能忠敬旧宅、伊能忠敬記念館、樋橋（ジャジー橋）、与倉屋土蔵等小野川沿いの古民家（商家）、佐原囃子の水郷佐原山車会館（映像有り、八坂神社境内）、旧三菱銀行佐原支店等々
帰り：佐原駅前発15：55（関東鉄道グリーンバス）→東京駅八重洲南口着17：40

ミニ歴史散策のお知らせ

日時：2018年9月5日（水）14：00～15：30

場所：たばこと塩の博物館

集合：博物館玄関 14：00

墨田区横川1-16-3

「東京スカイツリー」駅、「本所吾妻橋」駅より徒歩7分、「押上」駅より徒歩10分

テーマ：「たばこと塩の歴史」

➡ 詳細は9ページ参照

会員による学習会（計画中）

テーマ 「素人の語る『国分寺跡巡り』」

日時・会場 （9月ごろ、詳細未定）

講師 増田克彦

➡ 18ページ参照

内容 ①国分寺の紹介 国分寺は、なぜ、いつごろ、どこに、どのようにして造られたか。

②研究者への提言につながる国分寺造営に関するいくつかの疑問。③国分寺跡の現状紹介いくつか。

➡ 計画ができ次第、会員の皆様へご案内します

都歴研友の会ホームページ

<http://sky.geocities.jp/torekikentomonokai>

友の会の諸連絡、国内・海外研修旅行の記録、「友の会だより」バックナンバーもカラーで。